

第3次草津市環境基本計画 達成目標進捗調査票

資料2

1. 環境について学び行動できる地域社会づくり

達成目標	単位	担当課		R2	R3	R4	R5	R8	R14	R4年度成果	令和8年度目標達成に向けての課題および改善策
環境学習および活動の企画・実施サポート件数	件	環境政策課	目標値	/	(190)	(200)	(210)	240	300	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値200件に対して、R4年度実績値は135件となり、目標を達成できなかった。 主に、目標値の設定がコロナウイルス感染症拡大前に設定した値であり、コロナ禍で対面でのイベントが減少し、達成が難しくなったと考えられる。	市民が環境に関心を持ち、様々な環境学習が行えるよう、市ホームページやイベント等で環境学習情報を発信するとともに、講師派遣や貸出教材のさらなる充実を図る。また、R4年度から外部委託しているエコプラ環境学習啓発業務内容のよりよい啓発手法を検討し、環境学習および活動の企画・実施のための支援内容の充実を図る。
			実績値	113	165	135				【前年度との比較】 R3年度実績値165件に対して、R4年度実績値は135件となり、企画・サポート件数が減少した。 主に、エコプラ環境学習啓発業務の外部委託に伴う啓発手法に変更による情報発信件数の減少と、組織改編に伴うクリーンセンター内の貸室の減少により利用件数が減少したためである。	
子ども環境会議参加団体数	団体	環境政策課	目標値	/	(68)	(70)	(72)	78	90	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値70団体に対して、R4年度実績値は52団体となり、目標を達成できなかった。 コロナウイルス感染症拡大前に設定した目標に対して、コロナ禍における団体内で活動する機会の減少、さらにコロナ禍で子ども環境会議への参加の負担が影響している。	子ども環境会議では、交流やつながりが深まるよう実行委員会において内容の充実を図るとともに、事業所、団体、大学等多種多様な参画が図れるよう参加の呼びかけを行う。 また、R4年度のオンライン開催の経験を活かし、対面での活動との融合等の最適な開催方法を検討する。
			実績値	0	46	52				【前年度との比較】 R3年度実績値46団体に対して、R4年度実績値は52団体となり、参加団体数は増加した。 主に、コロナ禍での新たな手法として交流の部をオンライン開催として実施できたことで参加団体数が増加した。	

2. 気候変動への対策(緩和と適応)

達成目標	単位	担当課		R2	R3	R4	R5	R8	R14	R4年度成果	令和8年度目標達成に向けての課題および改善策
愛する地球のために約束する協定者数	者	温暖化対策室	目標値	/	(55)	(60)	(65)	80	110	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値60件に対して、R4年度実績値は56団体となり、目標を達成できなかった。 関係機関と連携を図ったものの、呼びかけが十分ではなく目標までの増加率にはつながらなかったと考える。	市の商工観光労政課、各学区のまちづくり協議会と連携を図り協定者数増加を図る。今後においても様々な場面で事業者・団体等に呼びかけ、締結者の増加を図っていく。
			実績値	52	54	56				【前年度との比較】 R3年度実績値54者に対して、R4年度実績値は56者となり、協定者数は増加した。 市商工観光労政課と連携し市内企業に啓発したことや、地域まちづくり協議会での出前講座等で説明したことが増加要因だと考える。	
地球温暖化対策に取り組む市民の割合	%	温暖化対策室	目標値	/	(40.3)	(42.3)	(44.3)	50.3	62.3	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値42.3%に対して、R4年度実績値は36.3%となり、目標を達成できなかった。 R3.12にゼロカーボンシティを表明したことにより増加を期待していたが、上記と同様啓発が不十分であったことが要因として考えられる。	地球温暖化について知るきっかけづくりとして、各イベント(冷やしたいフェアや宿場まつり)また、町内会等での出前講座を通して、積極的に啓発活動を行っていき、地球温暖化対策に取り組む市民の割合の増加をめざす。
			実績値	38.3	37.0	36.6				【前年度との比較】 R3年度実績値37.0%に対して、R4年度実績値は36.6%となり、地球温暖化対策に取り組む市民の割合は減少した。 ゼロカーボンシティを表明してから1年となったが、地球温暖化対策との関わりが市民等に十分伝えられていなかったことが理由として考えられる。	

3. 資源循環型社会の構築

達成目標	単位	担当課		R2	R3	R4	R5	R8	R14	R4年度成果	令和8年度目標達成に向けての課題および改善策
1人1日当たりの家庭系ごみ量(集団回収量含む)	g/人・日	資源循環推進課	目標値	/	(553.5)	(546.2)	(534.4)	516.0	509.0	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値546.2gに対して、R4年度実績値は515.4gとなり、目標値を達成することができた。 主に、家庭系ごみ排出量が減少したことによるものと考えられる。	ごみの排出量に応じた負担の公平化、ごみの排出抑制や再生利用、意識改革をより進めるために、令和5年10月から指定ごみ袋制度を変更する。 今後も引き続き、ごみの発生抑制と再利用を進める取組に重点を置きつつ、取組を進めてもなお、排出されるごみについては、できる限り資源物としてリサイクルするため、適切な分別に向けた取組を推進する。
			実績値	557.4	542.8	515.4				【前年度との比較】 R3年度実績値542.8gに対して、R4年度実績値は515.4gとなり、ごみ排出量は減少した。 主に、家庭系ごみ排出量が減少したことによるものと考えられる。	
1人1日当たりの事業系ごみ量	g/人・日	資源循環推進課	目標値	/	(260.5)	(258.7)	(252.4)	244.3	244.3	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値258.7gに対して、R4年度実績値は240.0gとなり、目標値を達成することができた。 主に、ごみの減量・リサイクルに向けた事業者への訪問指導等により、事業系ごみ排出量が抑えられていることによるものと考えられる。	事業者にごみの減量へのインセンティブを持っていただけるよう、令和5年4月からごみ処理手数料を引き上げ、引き続き、減量・リサイクルに向けた事業所訪問指導等に取り組む。
			実績値	232.4	239.6	240.0				【前年度との比較】 R3年度実績値239.6gに対して、R4年度実績値は240.0gとなり、ごみ排出量は微増した。 主に、新型コロナウイルス感染症の影響により自粛されていた外出が、徐々に再開されたことなどにより、厨芥類等の事業系ごみ量が増加したことが考えられる。	

4. 自然とともに生活する環境づくり

達成目標	単位	担当課		R2	R3	R4	R5	R8	R14	R4年度成果	令和8年度目標達成に向けての課題および改善策
生物多様性保全対策での外来生物の捕獲数(対象:アライグマ、ハクビシン、ヌートリア)	頭	環境政策課	目標値	/	(85)	(90)	(95)	110	140	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値90頭に対して、R4年度実績値は37頭となった。 目標設定時に急増したヌートリア被害が現在はほとんど発生していないため、目標値より低い値となった。	市ホームページや広報、各種イベント等で外来生物に関する周知啓発を積極的に行い、外来生物への認知度を高めていく。 市内で外来生物の目撃情報や捕獲依頼があれば速やかに対応を行い、捕獲率の向上に努めていく。
			実績値	62	30	37				【前年度との比較】 R3年度実績値30頭に対して、R4年度実績値は37頭となった。 捕獲頭数は変化しないものの、種類別で比較するとアライグマの捕獲頭数が増加傾向にある。	
生物多様性保全の学習会への参加者数	者	環境政策課	目標値	/	(0)	(1)	(2)	5	10	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値1者に対して、R4年度実績値は2者となり、目標値を達成することができた。 増加の理由として、重点事業1「いきもの自然学校」のモデル地域が当初予定の1地区から2地区になり、予定以上に事業を推進することができたため。	重点事業1「いきもの自然学校」については、受講者が自然に関心を持ち、地域の自然環境の保全・創出につながる事業を目指し、モデル地域が主体的に環境学習の企画運営を行っていたり、より効果的な学習会への参加を促し、いきもの自然コーディネーターの育成の育成を図っていく。
			実績値	0	0	2				【前年度との比較】 R3年度実績値0者に対して、R4年度実績値は2者となり、生物多様性保全の学習会への参加者数は増加した。 増加の理由として、R4年度から事業展開した重点事業1「いきもの自然学校」のモデル地域に対して、補助金を交付し、学習会への積極的な参加を促すことができたため。	

5. 健全な生活環境の保全

達成目標	単位	担当課		R2	R3	R4	R5	R8	R14	R4年度成果	令和8年度目標達成に向けての課題および改善策
河川の水質における環境管理基準(BOD)の達成状況	達成回数 / 調査回数	環境政策課	目標値		(24/24)	(24/24)	(24/24)	24/24	24/24	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値24に対して、R4年度実績値は17となり、目標の達成には至らなかった。 伊佐々川で1回、狼川で6回の基準超過があり、狼川流域上流において追加調査を実施するなど原因究明を行ったが、原因の特定には至らなかった。	河川監視の強化、規制対象の事業所の排水調査に努めるとともに、規制対象外の事業所に対しても啓発等を行っていく必要がある。 また、昨年度実施した狼川流域上流の追加調査を継続して実施し、汚濁エリアや発生要因の特定につなげていく。
			実績値	18/24	20/24	17/24				【前年度との比較】 R3年度実績値20に対して、R4年度実績値は17となり、河川の水質における環境管理基準(BOD)の達成状況は減少した。 狼川の基準超過が前年度より2回多く、狼川流域周辺の事業所の排水調査を重点的に実施するなど原因究明を行ったが、原因の特定には至らなかった。	
法令に基づいた指導件数	件	環境政策課	目標値		(31)	(30)	(29)	26	20	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値30件に対して、R4年度実績値は24件となり、目標を達成できた。	事業所立入を計画的に実施し、法令に基づく改善指導や届出指導を行いながら、事業所の自発的な法令遵守につなげるよう啓発を行っていく必要がある。 また指導件数をさらに減少させていくためには、指導に対する改善をすすめていただく必要があることから、改善状況の把握にも力を入れていく必要がある。
			実績値	15	28	24				【前年度との比較】 R3年度実績値28件に対して、R4年度実績値は24となり、指導件数は減少した。 立入先として選定している事業所の規模や業種によるばらつきも関係していると思われるが、これまでの指導の効果が現れてきているものと推察している。	

6. うるおい豊かな快適環境づくり

達成目標	単位	担当課		R2	R3	R4	R5	R8*	R14	R4年度成果	令和9年度目標達成に向けての課題および改善策
市民1人当たり都市公園などの面積	m ² /人	公園緑地課	目標値		(6.5)	(6.5)	(6.5)	6.7	6.9	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値6.5m ² /人に対して、R4年度実績値は6.67m ² /人となり、目標を達成できた。第3次みどりの基本計画に基づき、都市公園の整備を進めた結果目標を達成することができた。	今後の情勢の変化に備え、オープンスペースの活用等の時代に合った施策の検討が必要となってきている。
			実績値	6.71	6.66	6.67				【前年度との比較】 R3年度実績値6.66m ² /人に対して、R4年度実績値は6.67m ² /人となり、市民1人当たり都市公園などの面積は増加した。 都市公園は5公園、児童遊園2公園を供用開始したことがあげられる。	
「良好な景観の保全と創出」に満足している市民の割合	%	都市計画課	目標値		(22.0)	(23.1)	(24.2)	27.5	34.1	【令和4年度目標値との比較】 R4年度目標値23.1%に対して、R4年度実績値は17.3%となり、目標の達成には至らなかった。 地域景観に対する注目度等に変化があったと推測される。	地域の景観資源の発見と認識をさらに深めることにより、地域の景観への愛着や取り組みの機運が高まるよう、市民等の景観づくり活動を引き続き支援する。景観形成重点地区の無電柱化事業を進めるとともに、湖岸の視点場のPRや東海道統一案内看板の普及に向けて市民等に啓発していく。また、大津市と草津市で策定した両市共通の景観基本計画を草津市の景観計画へ反映を進めていく必要がある。
			実績値	20.9	19.0	17.3				【前年度との比較】 R3年度実績値19.0%に対して、R4年度実績値は17.3%となり、前年度から1.7ポイント減少した。景観づくりに関する啓発等を継続して進めてきたが、宅地や集合住宅の開発により、自然景観等が阻害されたと感じる方が少なからず増加したと考えられる。	

※「市民1人当たり都市公園などの面積」は、第3次草津市みどりの基本計画と整合を取り、R9年度に設定。